

教育学部・教育学院「生活と家計に関する緊急アンケート」報告

(教育学部 経済支援環境 WG 200528-2 版)

1 目的

学生・院生を対象とした経済支援策の検討を行うために、学生・院生の生活と家計の状況と支援ニーズについて把握すること。

2 調査の概要

(1) 調査対象

教育学部学生（1年5組30名を含む）、教育学院院生、研究生全員（合計438名）

(2) 調査方法

グーグルフォームによるWEB上でのアンケートへの記入。学生・院生への一斉メール配信、講義での案内と追加配信等で、学生・院生にアンケート協力依頼とURLの送付を行った。調査期間は2020年5月20日（水）から5月27日（水）まで。

(3) 回答率

66.0% 回答数：289／調査対象数：438

属性ごとの回答率	学生（1年・学部）	69.5%（153/220）
	修士課程院生	78.2%（79/101）
	博士課程院生	51.9%（55/106）
	研究生	18.2%（2/11）
	（留学生・内数）	76.4%（55/72）

(4) 実施主体

教育学部経済環境支援WG（松本伊智朗 上原慎一 鳥山まどか 光本滋）

3 調査結果の概要

集計結果（単純集計）は末尾を参照。特に留意すべき点を以下に挙げる。

(1) 多くの学生、院生が、学費、生活費等を自らの収入で賄っている。(Q12・14)

- ・授業料をすべて家族が支払っているのは53.3%。多くは自分の収入から全部あるいは一部を支出している。すべて自分で支払っているものは17.0%である。
- ・学習費や生活費を自分の就労収入でねん出している学生・院生は58.5%。親・家族からの援助を受けているものは60.2%である。

(2) 多くの学生、院生に収入の低下、喪失がみられる。(Q10・11)

- ・新型コロナウイルスの影響で、収入が減少した(33.6%)、収入がなくなった(32.5%)、生活費などの切り詰め(32.5%など)、多くの学生・院生に影響がみられる。自分自身の経済環境に「特に影響はない」ものは20.8%である。
- ・家族の収入が減少したものは31.8%、なくなったものが2.8%(8例)ある。

(3) 健康への影響が懸念される (Q1・2)

- ・すでに「栄養のバランスを考慮した食事をとることが経済的に困難」であるものは5.9%、この1~2カ月の間に陥る可能性があるものは11.8%で、合計17.7% (51名)となる。
- ・すでに「医療費を節約したり、経済的な理由で必要な受診を抑制している」ものは8.0%、この1~2カ月の間に陥る可能性があるものは7.3%で、合計15.3% (44名)となる。

(4) 延滞納、借入金での補てん等、生計困難リスクが懸念される (Q3・4・5・6)

- ・「家賃の滞納・支払い困難 (3.1%)」「水光熱費・通信費等の滞納・支払い困難 (2.8%)」「借金で生活費や支払いを補てん (5.5%)」「リボ払い等の支払い先延ばし (実質的な借金) (10.7%)」等、すでに生計費維持が困難になっている学生・院生が存在している。
- ・この1~2カ月の間に上記の困難に陥る可能性を感じている学生・院生を含めると、1割から2割の学生・院生が生計困難リスクに直面していることが推察される。

(5) 学習や研究への支出削減がみられる (Q7)

- ・すでに「学習や研究にかかる費用の支出を減らしている」ものは、19.7%、この1~2カ月の間に陥る可能性があるものは8.7%で、多くの学生、院生の学習、研究への影響がみられる。
- ・「調査内容以外のお金に関する困りごと・心配」について自由記述欄を設けたところ、31件の記入があった。うち9件は、大学施設が利用できない状態でのオンライン授業対応による支出増に関することであった(オンライン配信のレジュメ・資料の印刷代、図書館閉鎖に伴う図書購入、パソコン購入など)。支出削減の側面だけではなく、学習、研究に関する支出増と、それに起因する生計費支出の切り詰めが起こっていることにも留意する必要がある。

(6) 休学、退学のリスクに直面している学生、院生が存在している (Q8・13)

- ・すでに「経済的な理由で休学・退学を考えている」ものは、3.5% (10名)、この1~2カ月の間に陥る可能性があるものは4.2% (12名)である。
- ・前期授業料の支払いが困難であるものは10.7% (31名)である。前期は支払えるが後期の支払いが困難である者は、9.3% (27名)である。上記を勘案すると、10%~20%の学生・院生が休学、退学リスクに直面している。

(7) 経済的支援へのニーズがある (Q15)

- ・緊急貸付制度(無利子)があれば利用したいと回答したものは8.7%、数か月後の可能性があるものは19.7%である。現時点での経済的支援の必要が示されると同時に、今後の見通しに不安を感じている学生、院生が多く存在していることがわかる。
- ・利用したい、今後の可能性があるが、返済が心配なので利用しないと回答している学生、院生が28.4%の比率で存在していることに留意が必要である。上記と同様、現時点での経済的支援の必要と同時に、今後の見通しの不安が示されている。

(8) 大学院生、留学生、「ひとり暮らし」学生・院生によりニーズが高い

- ・これまで述べてきたような困難や懸念は、独立して生計費、教育費を捻出している割合が高いと想定される、大学院生、留学生、「ひとり暮らし」に大きい傾向がみられる。
(例えば医療費の節約・受診抑制は、留学生 14.5%/留学生以外 6.4%。詳細は本報告では割愛)
- ・しかしこの傾向は、それ以外の学生、院生に困難や懸念がないことを意味しない。学部生、日本人大学院生、実家で生活している大学院生も同様に、困難に直面しているものが存在していることに、留意する必要がある。
- ・実家で暮らしている学生の自由記述に、「学費・研究費・通信費は自分で賄っており、実家生であるために経済支援が受けづらい」という指摘があり、留意すべきである。

4 まとめ

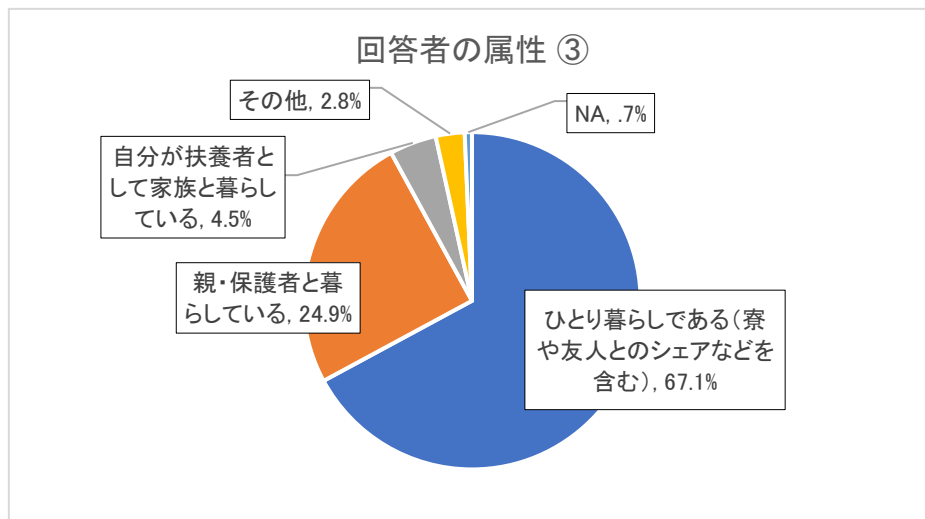
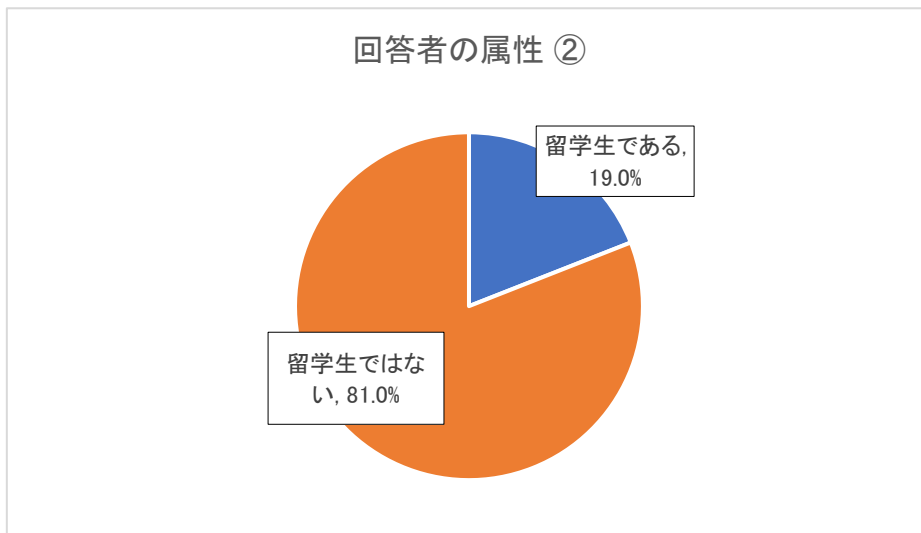
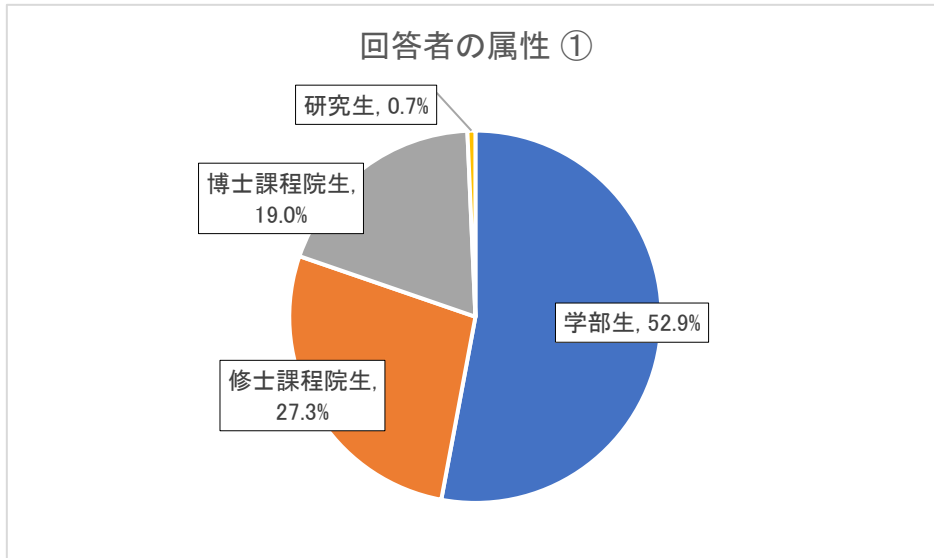
- ・緊急的な経済支援が必要である。特に健康リスク、生計維持困難の緩和が優先的な課題である。個別の借金による生計費補てんは、今後の見通しが立たない中では、負債が困難の長期化・深刻化を招くこと、友人等の社会関係に問題を発生させるリスクを含むこと、メンタルヘルス上の問題の原因になる可能性があることに、留意する必要がある。
- ・緊急的な経済支援としてなされる、文科省等の給付金の申請を促進する措置が必要である。その際積極的な広報とともに、申請しやすい条件を整える工夫が重要である。例えば申請受付をオンラインのみで、かつ書類のパスワード付きスキャン等を条件にすることは、大学院生の機器の保有状況によって申請が左右され、結果として困難に直面している大学院生が支援から排除される可能性がある。
- ・今後の見通しに不安を持つ学生、院生が多く存在している。中期的、長期的な経済支援の枠組みが必要である。
- ・学習、研究への影響を緩和する方策が必要である。特に追加的に発生している費用の補填、大学の設備が使用できないことへの代替手段の提供が必要である。
- ・中退リスクへの対応として、学費の減免、支払い猶予を抜本的に拡大する必要がある。
- ・これらの対応は、個々の学部単位では極めて限定的である。北大全体での対応枠組みを早急に構築し、大学院生に周知する必要がある。
- ・すべての大学院生に対して、大学として支援する姿勢を示し、丁寧な説明をする必要がある。この点に関して自由記述を引用する。

新型コロナウイルス蔓延に伴って有無を言わずにオンライン授業を受講することになったが、やはり対面授業の質には到底及ばない。また図書館の自由な利用や教授と個人的に話す機会なども失われており、学習の質の低下は著しい。このような状況下で昨年度と同じように授業料を請求されることに多少の違和感を覚えている。塾やスポーツジム、コンサートなどは返金対応をしているが、大学は例外なのだろうか。実際問題、大学の経営状況的に授業料を請求せざるを得ないのとはわかってはいるが、それでも当然のように請求するのではなく丁寧な説明をしてほしい。この状況下でも（支払いを遅らせてはいただいたが）平然と請求を迫られると、この大学は学生を金ヅルとしか考えていないのではないかと疑ってしまう。ちゃんと一人の人間として大事に扱ってほしい。生活にはあまり困ってなくても、こういう気持ちになっている学生がいるということも把握していただけるとありがたいです。

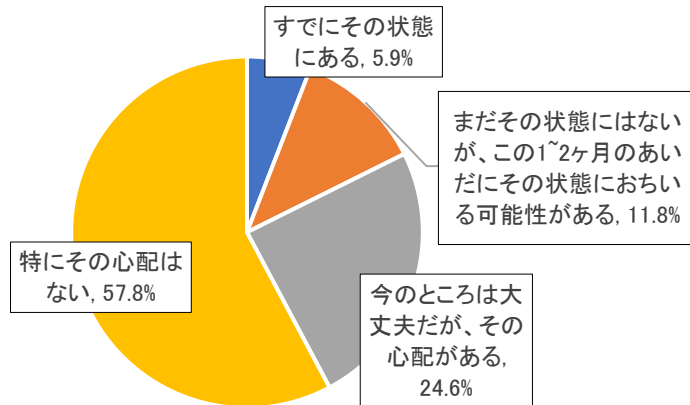
以上

教育学部・教育学院「生活と家計に関する緊急アンケート」結果

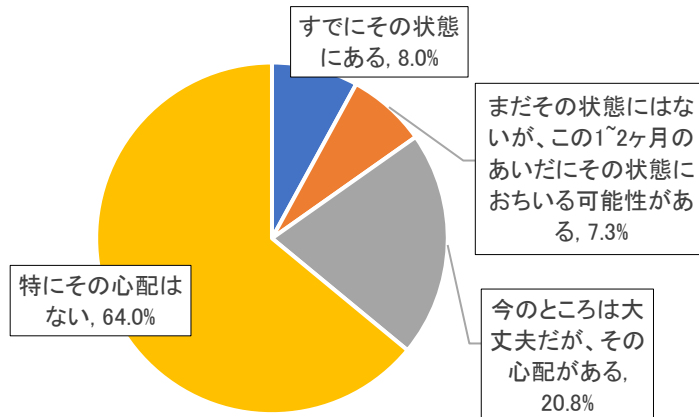
以下は、回答者全体（289名）の回答内容です。



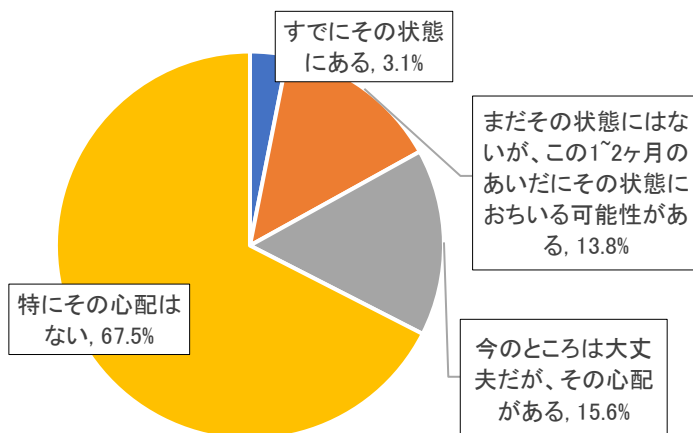
Q1 栄養のバランスを考慮した食事をとることが
経済的に困難である



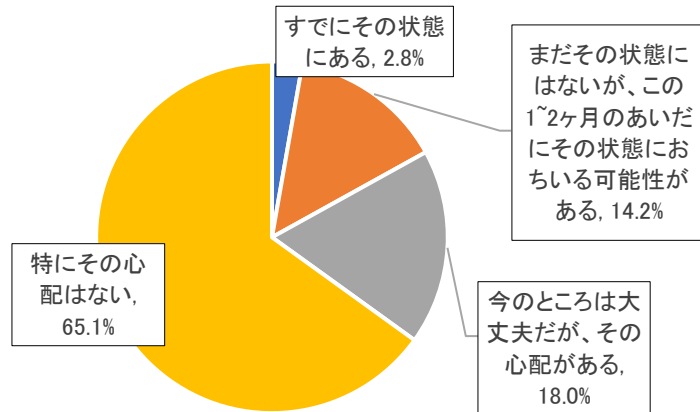
Q2 医療費を節約したり、経済的な理由で
必要な受診を抑制している



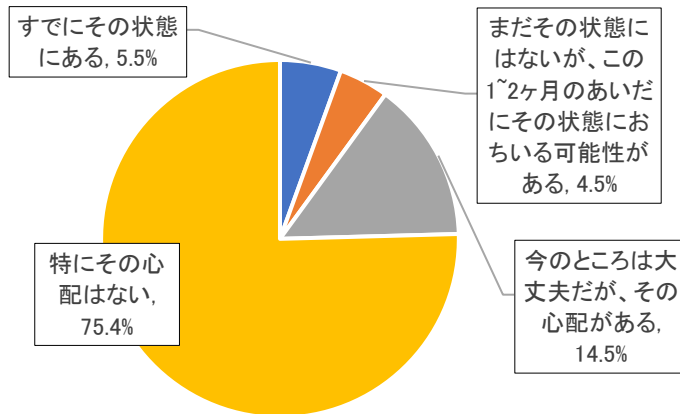
Q3 家賃を滞納したり、支払いが困難な状況にある



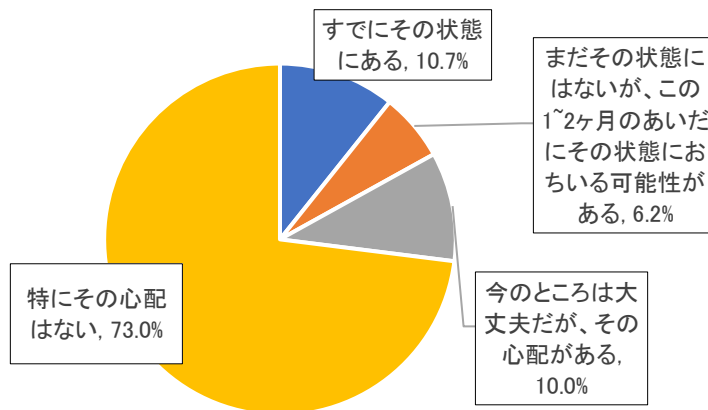
Q4 水道光熱費や通信費などを滞納したり、
支払いが困難な状況にある



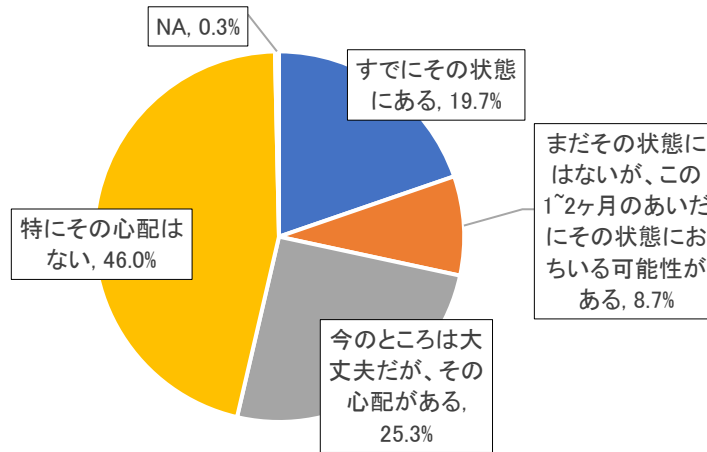
Q5 友人・知人からお金を借りたり、貸金業者(キャッシングを含む)などからの借入金で生活費や支払いを補てんしている



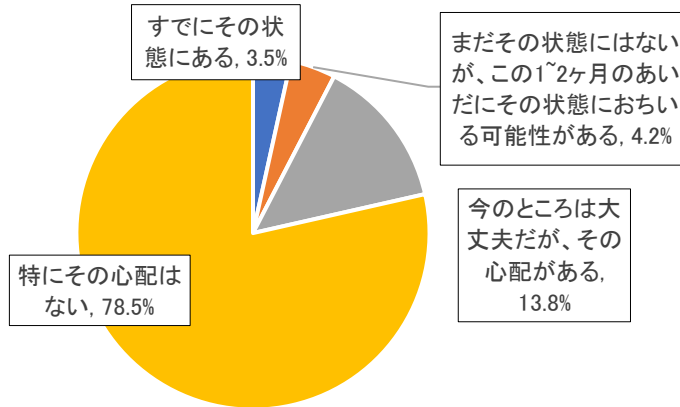
Q6 支払いを先延ばしするために、携帯・スマートフォン払いやクレジットカードのリボ払いを利用している



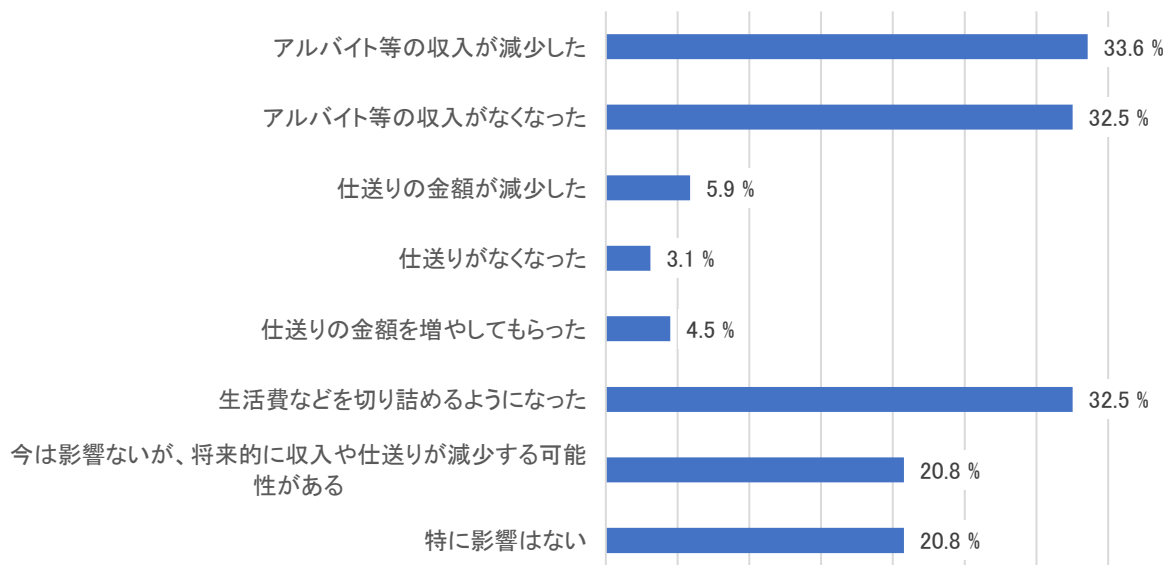
Q7 学習や研究にかかる費用の支出を減らしている



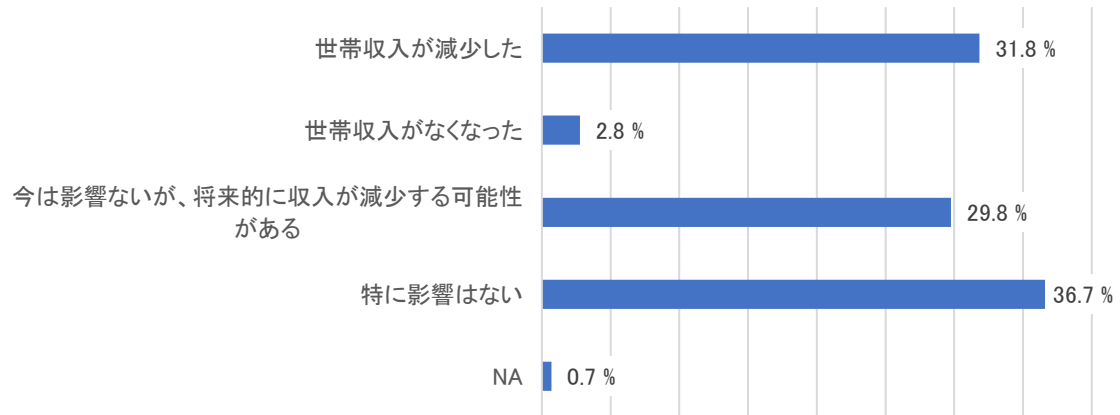
Q8 経済的な理由で休学・退学を考えている



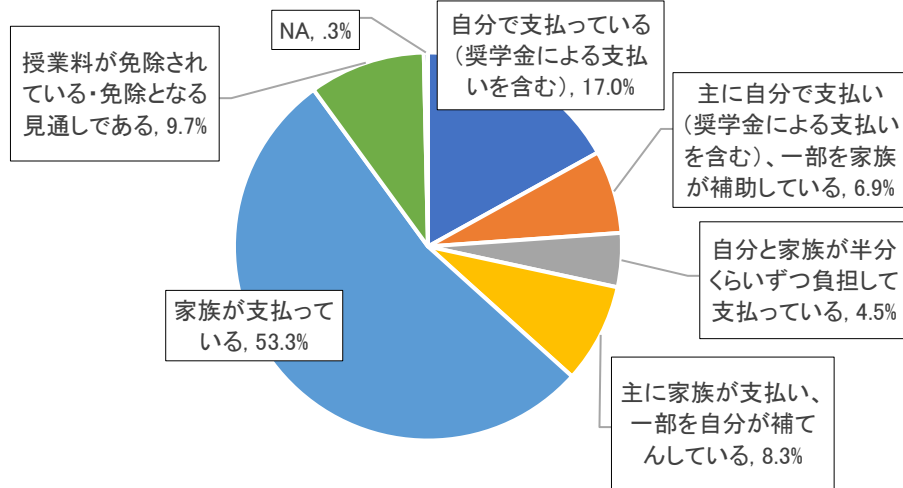
Q10 新型コロナウイルスの影響により、あなた自身に次のようなことがありましたか（複数回答）



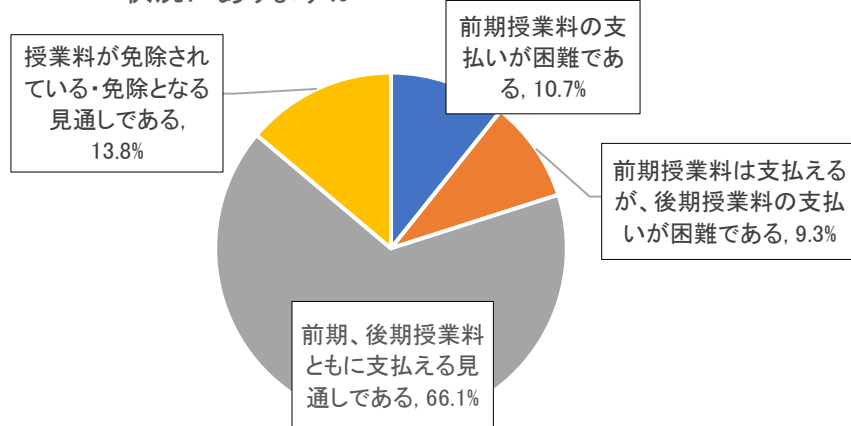
Q11 新型コロナウイルスの影響により、あなたの家族に
次のようなことがありましたか（複数回答）



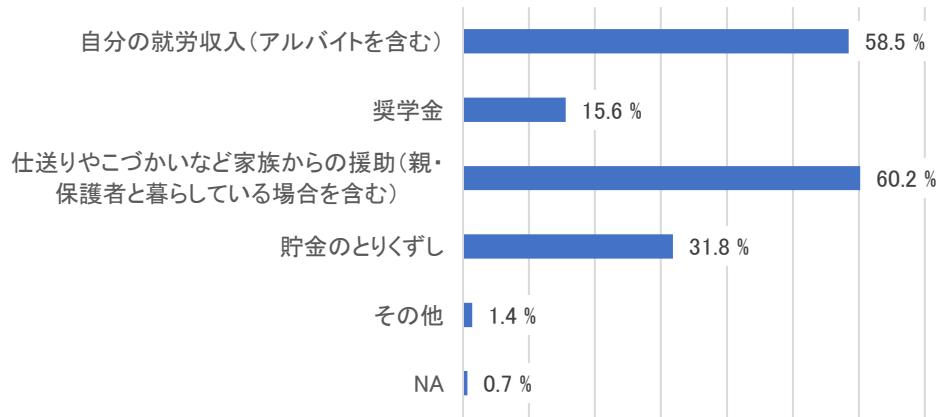
Q12 授業料を支払っているのはどなたですか



Q13 今年度の授業料支払いの見通しはどのような状況にありますか



Q14 現在、日常的な学習費(授業料を除く)や生活費はどこからねん出していますか (複数回答)



Q15 教育学部独自の緊急貸付制度(無利子)があれば、利用しますか？

